

1. 我が国にとってのアフリカの重要性

(1) めざましい経済成長: 世界の成長センターへ

- ◆ 2001年～2011年のアフリカの年平均**実質GDP成長率**は**世界平均の3.7%を上回る4.6%**(サブサハラ・アフリカ全体5.7%) (図表1)
- ◆ 名目GDPは2001年からの10年間で**3.2倍**に拡大し**インド、ロシア並の規模**(図表2)
- ◆ 2005～2011年のアフリカの**人口増加率**は**2.2%**と**アジア(1.1%)の倍**。現在約10億人の人口は、2050年には**約22億人**に達し、**中国・インドを追い抜く見通し**(出典: 国連経済社会問題局)



(2) 豊富な天然資源

- ◆ 南部アフリカを中心に豊富な鉱物資源
- ◆ 我が国は先端産業に不可欠なレアメタルの多くをアフリカに依存(図表3)

(3) 戦略的外交の観点

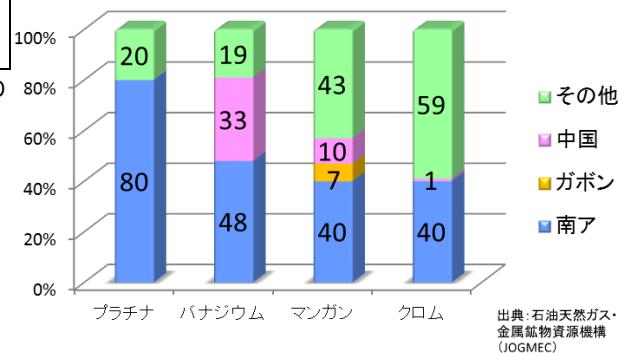
- ◆ グローバル課題に取り組むにあたり、**アフリカ54カ国からの支持・協力は不可欠**
- ◆ アフリカの問題に対処することは、国際社会の主要なメンバーとしての我が国が**国際社会からの信頼を獲得**する上でも重要

➡ **アフリカとの関係強化は我が国の国益に直結**

【図表2】



【図表3】 日本の主なレアメタルの輸入割合(2010年)



2. TICAD (Tokyo International Conference on African Development) : 対アフリカ外交の基軸

(1) TICADの特徴

- ◆ **長い伝統**: 20年(5年に1度)の歴史を有し、国際社会のアフリカ開発フォーラムの**先駆的存在**
  - ◆ **包括的かつオープンなフォーラム**: アフリカ諸国のみならず、開発に携わる国際機関、ドナー諸国、民間企業、市民社会も参加するマルチの枠組み
  - ◆ **パートナーとしてアフリカの自律的成長を後押し**するとの哲学
- ➡ **他国主催会合に比べて高い求心力**(図表4)

【図表4】: 他国主催の会合との比較



(2) TICADの歩み

開催年	参加首脳数	概要
TICAD I (1993年)	5名	冷戦終了後、国際社会がアフリカへの関心を低下させる中で、 <b>アフリカ問題の重要性を国際社会に喚起</b>
TICAD II (1998年)	15名	「 <b>アフリカのオーナーシップと日本を含む国際社会のパートナーシップ</b> 」のTICADの基本哲学を提唱
TICAD III (2003年)	24名	「 <b>平和の定着</b> 」「 <b>人間中心の開発</b> 」「 <b>経済成長を通じた貧困削減</b> 」をアフリカ開発の3本柱に位置づけ
TICAD IV (2008年)	41名	<b>経済成長の加速化</b> 、 <b>人間の安全保障の確立</b> 及び <b>環境・気候変動問題</b> への対処を重点事項として、アフリカ開発の方向性について議論



3. TICAD Vの概要(2013年6月1日～3日 横浜)

(1) 全体テーマ 「**躍動のアフリカと手を携えて**」

(2) 背景

現状: アフリカは**目覚ましい経済成長**の一方、**資源取引への依存、格差拡大、紛争・政治不安**等の課題

課題克服

目標: 成長の**「質的向上」**

- **強固で持続可能な経済**
- **包摂的で強靱な社会**
- **平和と安定**

我が国の支援策(4. 参照):

- (1) **インフラ整備**や**人材育成**等の支援、**農業振興・食料安全保障の確保**等
- (2) **保健、教育等ミレニアム開発目標(MDGs)**(注)達成への貢献等
- (3) **平和と安定、ガバナンスのための支援**

(注) 2015年までに母子保健の増進、初等教育の完全普及の達成等8つのゴールの達成を目指す国際的取組

4. TICAD Vにおける我が国の支援策((1)~(3)の施策は相互に深く連携)

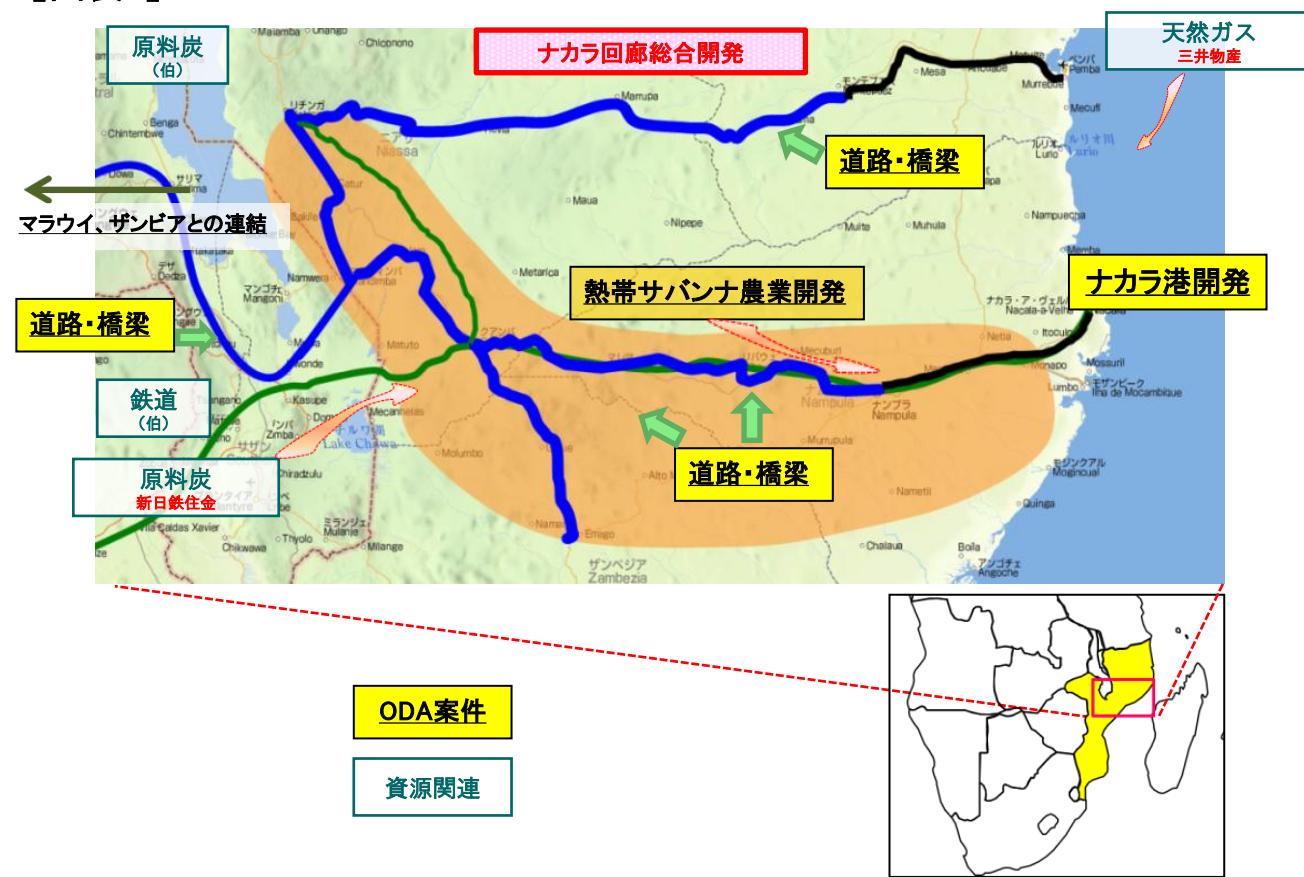
(1) 経済成長促進のためのインフラ整備、人材育成、農業振興等

- 我が国の技術・知識・経験を活かした支援の必要性(以下を総合的に支援)
- ◆ インフラ整備: 広大なアフリカの経済成長のためには、個別案件に加え、**物流インフラを軸とした広域経済圏の形成**を後押しすることが重要
- ◆ 人材育成: 雇用につなげるための**産業人材育成**
- ◆ **ビジネス環境整備強化**支援(例: 通関支援、投資関連法制度の整備等)
- ◆ 農業・食料安全保障: 小農を中心とした生産向上、稲作倍増、自給自足から**ビジネス指向の農業へ**
- これらは、インフラ受注を含めた我が国ビジネス展開支援にも直結

具体的施策①: **モザンビーク・「ナカラ回廊総合開発」の展開を一層促進**(図表5)

- ◆ 本邦企業が権益を獲得した石炭、天然ガス等の開発や農業開発に資する道路、港湾及びその他の関連施設等を開発
- ◆ 我が国がかつてブラジルの熱帯サバンナ地域で行った大豆生産協力の成功例を踏まえ、同じポルトガル語を公用語とするモザンビークにおいて現地小農等の生産向上のため熱帯サバンナ農業開発を日伯共同で支援。生産された農作物が輸出される場合には、必要なインフラ整備に我が国が積極的に関与することが重要(主要作付作物: 大豆、ゴマ、とうもろこし、キャッサバ、綿花等)

【図表5】



出典: JICA、農水省

(2) 保健、教育等ミレニアム開発目標(MDGs)達成への貢献等

- ◆ 教育: 初等・中等教育の質の向上(持続可能な社会づくりの担い手を育む教育)
- ◆ 保健: 保健システムの強化と全ての人々が基礎的な保健医療サービスを楽しむこと(ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC))の推進を支援

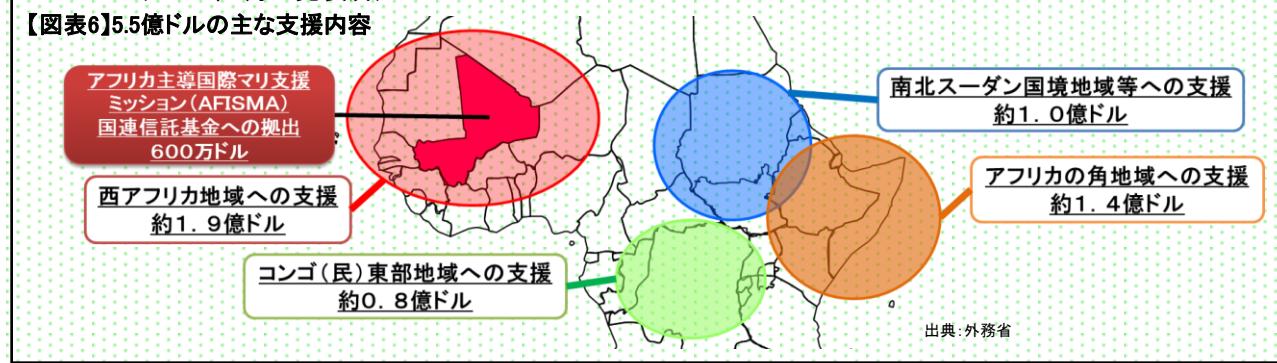
具体的施策②: **理数科教育の拡充、栄養改善のための協力強化等、人間の安全保障の観点からMDGs達成に向けた取組を後押し**

- 【国際保健外交戦略】世界が注目するTICAD VIは、同戦略を発信する好機
- 国際保健を日本外交の重要課題と位置付け、オールジャパンで推進
- 人間の安全保障の理念に立ち、UHCの実現を目指す
- 具体的には、
  - ・UHCに関する議論(含、MDGsの後継枠組み)の主導
  - ・二国間援助の効果的な実施(含、日本の医療産業の国際展開を通じた貢献)
  - ・グローバルな取組との連携 等

(3) 平和と安定、ガバナンスのための支援

具体的施策③: **テロ対策支援を含む治安維持能力強化への更なる支援、海賊対策の継続、中長期的民生の向上・安全な投資環境整備への貢献の打ち出し**

(参考) アフリカの平和と安定のための支援として総額約5.5億ドルを拠出(図表6)  
(2013年3月に発表済)



5. TICAD関連会合・イベント

- ◆ **日アフリカ資源大臣会合**(5月18日、経済産業省・JOGMEC等共催): 南部アフリカの資源担当大臣を招き、アフリカでの持続可能な資源開発への日本の貢献等について議論。直前には国際資源ビジネスフォーラムを開催予定。TICAD Vに成果を盛り込む。
- ◆ **アフリカンフェア**(5月30日~6月2日、経済産業省・JETRO共催)等: 環境関連製品、地デジ等の展示を通じて日本製品・技術のアフリカ市場におけるプレゼンスを高める。
- ➡ **TICAD Vの機会を活用した関連会合等の展開や成果を踏まえたフォローアップ会合等の実施が重要**

6. 本テーマにおける論点

- ◆ 以下を念頭に置いたあり得べきTICAD Vの成果(横浜宣言・行動計画)
- ◆ アフリカと我が国がともに成長するための経済協力の在り方